## 2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年2月1日作成)

			(Z0Z++Z/)   H   F/%/	
小委員会名	海際文化小委員会		<b>主 査 名</b> : 友渕 貴之 <b>就任年月</b> : 2022 年 4 月	
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会		<b>委員長名</b> :神吉紀世子	
設 置 期 間	2022年4月 ~ 2026年3月			
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	海との結びつきを軸に豊かな社会構造、生活構造、産業構造を育んできた知恵と 技術を解明し、海際の将来像を検討していくことを目的とする。 初年度:小委員会を数回開催し、課題整理と議論を展開する。 2年度:公開研究会・研究懇談会等を開催し、議論を展開する。 3年度:公開研究会等を開催し、議論の成果の取りまとめをはじめる。 4年度:公開研究会等を開催し、これまでの研究成果を取りまとめ、公表する。			
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無:無         主査: 友渕貴之(宮城大学)         幹事: 青木佳子(千葉商科大学)       下田元毅(大手前大学)         委員: 磯村和樹(東北学院大学)       伊藤智寿(ゴンジロウ)         江端木環(京都女子大学)       神吉紀世子(京都大学)         佐藤布武(名城大学)       槻橋 修(神戸大学)         萩原拓也(名城大学)       藤井章弘(AMDlab)         本江正茂(東北大学)       吉村真衣(三重大学)         川勝真一(RAD)			
設置 WG (WG 名:目的)				
2023年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無:無 委員会 HP アドレス:		

項目	自己評価		
委員会開催数	2回(年度内計画を含む)*別途勉強会3回、能登半島地震緊急会議(2回)		
刊行物 (シンポジウム資料等は除 く)			
講習会			
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画			
大会研究集会	1. 研究懇談会:海際から描く、くらしの教養 ——生活・生業・技術・文化 『農村計画部門研究懇談会資料:同上』 参加者数 66名		
対外的意見表明・パブ			
リックコメント等			
目標の達成度 (当初の活動計画と得られ た成果との関係)	1. 今年度は当初予定した通り、大会研究集会を開催し、学会内において海際文化小委員会の方針を広く発信した。また設置目的に照らし合わせ、災害によるリスクも踏まえながらも海際で暮らし続けるための教養を体系的に整理することを目指し、資料集の作成等を通じて情報の収集にも努めた。 2. 海際に焦点を当てた研究者の交流を拡張していくことから、海洋建築委員会の津波に対する沿岸域まちづくり検討WGとの連携を見据えた合同委員会の開催も見据えている。また能登半島地震に向けた共同研究に関する企画検討も動き始めた。		
委員会活動の問題点 ・課題	1. 海際文化という観点から沿岸で暮らし続けるための方策を探求することを目的に活動しているが、活動を位置づけていくための土台構築に時間を要している。2. 対外的な情報公開の方法(手法・媒体)について検討中である。		